

海に見える交流館周辺設計業務公募型プロポーザル

審査講評について

1. 審査経過の概要

海に見える交流館周辺設計プロポーザルには、2事業者からご提案をいただきました。

令和8年7月21日を提出締切として参加表明書の提出を受け、事務局において提出書類の確認を行いました。その後、令和8年7月31日を提出締切として業務提案書等の提出を受け、令和8年8月10日に隠岐の島町役場201会議室において、プレゼンテーション・ヒアリングを実施しました。

プレゼンテーション・ヒアリングでは、各事業者から提案内容について説明を受けた後、審査員との質疑応答を行いました。その後、審査員が、企業の経験・能力や業務の執行体制、予定管理技術者の評価、提案内容等について総合的に評価を行い、各審査員の採点結果をもとに平均点を算出しました。

その後、審査会において各審査員の採点の考え方や評価内容をもとに協議を行い、総合的に判断した結果、SAI・HiMa設計共同体を最優秀提案者に選定しました。

2. 審査講評

【最優秀提案の評価概要】

本提案は、住民参加や社会実験の実施にあたり、関係者との対話を重ねながら地域の意見を把握し、それを計画に反映していく具体的なプロセスが示されており、高く評価されました。

特に、世代をつなぐ取り組みとそのプロセスについては、小中学校・高等学校で行われているまちづくり授業と連携し、子どもたちが什器の検討・設計・製作・実証実験までを一貫して主体的に担う具体的なプログラムが提案されており、子どもたちとのまちづくりとの連携という点で高く評価されました。あわせ

て、大学教員及び学生が世代間をつなぐ役割を担いながら参加する提案となっている点も優れており、こうした重層的な世代の関わりが、将来にわたって地域に愛着と担い手を育てていく仕組みとして期待できます。

また、本業務の契約期間内の計画にとどまらず、施工期間中や運用開始後も継続的にワークショップ等を通じて地域の皆さまと共に広場を育てていく考え方が示されており、単年度の計画完結を前提とせず、将来的なまちづくりの進捗や状況の変化に応じて柔軟に対応していく姿勢が随所にうかがえました。西郷港周辺まちづくりが多数の関係者・複数のプロジェクトが並行して進む複雑な事業であることを踏まえると、こうした継続性・柔軟性を備えた提案内容は、本業務の目的に適合するものと判断しました。

あわせて、地域コミュニティ形成を専門とする大学教員及び研究室を含む複数人による執行体制が示されており、業務工程を踏まえた実現性についても評価されました。

以上を総合的に評価し、本業務の目的に最も適合する提案であると判断しました。

【優秀提案の評価概要】

本提案は、大山隠岐国立公園、日本海、西郷湾、大城台地と、西郷港へと連なる景観の軸を読み解き、これをエリアデザインから一貫する「海とまちをつなぐ軸」として、交流館周辺の広場の動線計画と結び付けて提案している点が分かりやすく、評価されました。フェリーターミナルからの景観やにぎわいを重視した広場の将来像、社会実験等についても具体的な考えが示されました。

一方で、子どもたちを含めた世代をつなぐ具体的な参加プロセスや、本業務にとどまらない継続的プロジェクトの進め方については、最優秀提案に比べて具体性がやや不足していると判断しました。また、実施体制や業務工程における実現性の面でも最優秀提案に比べ、相対的に及ばないものと判断しました。

以上を総合的に評価し、次点の提案として位置付けました。

選定された提案者には、地域の皆さまとの対話を重ね、関係者とともに広場のあり方を形にし、その後のまちづくりへとつなげていくことを期待します。

最後に、本プロポーザルにご参加いただき、貴重な時間と労力を費やして真摯にご提案いただきました両事業者に、心より感謝申し上げます。

海に見える交流館周辺設計プロポーザル

プロポーザル審査委員長 藤野 一